

森林技術センター 木材利用課：酒井・矢杉
電話 0744-52-2380 FAX 0744-52-4400
農林部林業振興課 総務企画係：山下・迫田
電話 0742-27-7471 FAX 0742-24-5004
(内線 3945,3944)

報道資料

「奈良の木の防音フローリングを開発」

＝県内企業による製造販売、まもなく開始＝

昨今、奈良県内の人工林で、スギ、ヒノキが伐採（収穫）時期を迎える中、県産材の需要拡大、新商品開発が急務となっています。

マンション等集合住宅の2階以上で使われる防音性能を有する床材は、合板を使った複合フローリングや幅90mm以下の板しか製造・販売されていない状況でした。そこで、奈良県森林技術センターでは、県内企業（株式会社ホーテック）と共同で、防音フローリングの研究に着手し、このたびは県産スギ・ヒノキ無垢材で標準的な板幅110mmの商品開発に全国で初めて成功しました。

一般財団法人 日本建築総合試験所で防音性能試験を実施したところ、今回の開発品が一般的なマンション管理組合が定める防音基準「 Δ LL-4 (LL-45)」を満たすことが確認されました。

今後は、県内企業がマンションリフォーム事業者等に向けた製造・販売を予定しております。森林技術センターでは、このような技術的支援を継続していくことで、県産材の需要拡大、林業の振興等につなげていきます。



奈良県産スギ無垢の防音フローリング

1. 今回開発した防音フローリングとは

今回の開発品は、表面は普通の無垢材フローリングと同じですが、防音性能を持たせるために以下の2つの加工を行っています。

- ① 木材の裏側にスリット（切れ込み）を入れ、木材繊維の一部を切断する。
→繊維を一部切ることで、横方向（繊維方向）に伝搬する音を減らします。
- ② 木材の裏面に吸音クッションを貼り付ける。
→クッション材の効果で、床上で発生した音をコンクリート床に伝わりにくくします。

2. 防音性能試験について

試験室のコンクリート床の上に防音フローリングを置き、その上からタッピングマシンで衝撃音を発生させます。そして階下の部屋で音量を測定することで、「床衝撃音レベル低減量（ ΔLL ）」を算出し、JIS規格に基づいて1～5に等級分けをします。一般的なマンション管理組合での推奨値であるLL-45は、通常 $\Delta LL-4$ に相当します。



図1 タッピングマシン
(軽量床衝撃音を発生させる装置)

$\Delta LL-4$ (LL-45 相当)に合格

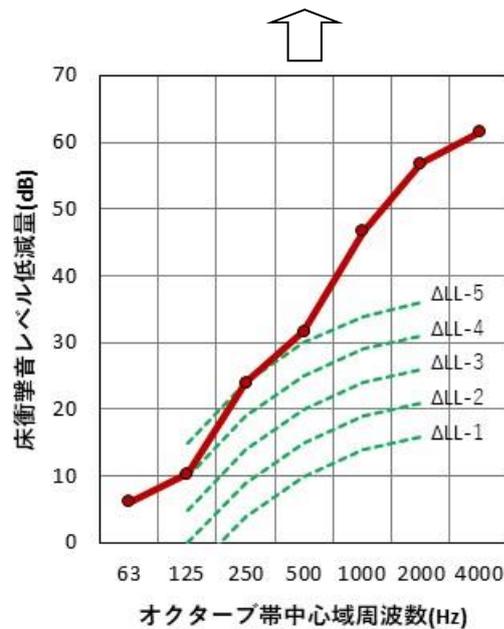


図2 防音性能試験結果
(一財)日本建築総合試験所にて実施